

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	機会があるごとに施設を紹介し、地域の社会資源として活用するように働きかけています。	○  地域に出向き介護教室を開催し、その都度、ホームとして貢献できることがないか働きかけたり、又、ホームへの支援の協力を求めている。
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を基本に年間事業の企画・実施またはサービス計画の反映に努めています。	
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地区事業に参加したり、家族会等、折りあるごとに説明し理解を得ている。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	顔を合わせたときは、挨拶や会話が自然に出来ている。季節の野菜など持ってきてくださったときはお茶など召し上がっていただいている。	
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の清掃、作業、文化祭、伝統行事に参加している。施設主催の盆踊り大会を開催し、地区住民の参加により盛大に実施している。	

グループホーム赤いんじん

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	一人暮らし高齢者料理教室の開催、在宅介護者の介護教室の開催。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価表を基に、全職員が検討を行い、具体的な実施計画を立て、取り組み、容易なことから実践しています。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、実情報告等行なうが意見が出されない。	○	事前に資料を配り、会議の席で意見を出しやすい方法を検討しています。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設へ市町村職員が訪ねて来たり、疑問や問題等はその都度は行政と相談しながら行ないます。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度についての研修会に参加はするが、理解しにくい面があることと、過去・現在、対象者が無いこともある。	○	研修会には参加し、対象者が出たときは対応できるように体制を整えて行きたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	関連の研修会等には管理者が参加し職員に周知している。職員会議に問題提起して検討している。	○	研修会等には全職員が随時受講できるようにしたい。

グループホーム赤いんじん

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

グループホーム赤いんじん

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	開設以来、職員の異動は少ない。そのような場合は事前に説明を行なっている。	
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	研修会、学習会を年間計画に沿って実施している。また、日常業務の中で適切なアドバイスをこなっている。近隣のグループホームとの学習会も行っている。	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	職員は、近隣のグループホームと学習会、交流会を行なっている。利用者も訪問したり、他のグループホームと食事会を行なっている。	○ 専門の講師を招いて学習会、利用者同士の交流の機会を増やしたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	休憩時間等に自由な意見を言い合っている。福利厚生、食事会などで、職員間の楽しむ機会を作っている。また、佐久総合病院からカウンセラーを依頼し、ストレスについての勉強会もおこなった。	○ ストレスに関する学習会への参加。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	各自の持っている能力・技術を生かせるように役割分担し、業務を任せる。	○ 食事・行事・美化・防火等、係分担し、年間計画に従って具体化し、責任を持って実施している。

グループホーム赤いんじん

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	訪問し、面接の中で生活環境の把握と精神状態の観察の中から本人の求めていることを見つけたり、家族からの要望などを聞きながら一緒に考える。	○ 双方が納得いく状況まで各家庭へ訪問を行ったり、家族に施設に出向いて状況を知ってもらう。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家庭への訪問や、施設を見てもらった中で、話し合いを行なっている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス計画は本人、家族が求めていることを基に作成している。その他、ターミナルケア、医療機関への通院も合わせて話し合い、その都度対応している。	○ 歯科や眼科、整形外科など施設の協力医療機関の専門外への通院は本人の希望を取り入れて通院するなどの支援を行なっている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に見学や、希望があれば生活体験の期間を設けるなどして対応する。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	出来る範囲の家事を一緒に行なったり、お茶など、利用者、職員と一緒に楽しむ時間を作っている。	

グループホーム赤いんじん

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族に利用者の状態を報告しながら相談して、面会・外出・その他希望されることに協力を得ている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人のよい所を見つけて、家族に伝えたり、施設が一方的に支援するのではなく、ずっと自分の家族の一員であることの大切さを家族に理解してもらい、一緒に出来る支援をしてもらうように話し合ったりする。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人と繋がりが途切れないように、手助けとして電話をしたり手紙の代筆を行なっています。住み慣れた家の近くへドライブしたり、地域の行事に参加したりして出来るだけ交流の場を設けるようにしています。	○	利用者との会話の中で行ってみたいと思われる場所や、思い出としてずっと残っている場所など、行ける範囲で連れて行くなどしたい。また、家族・親族・友人にも協力してもらい、出来るだけ訪問してもらうようにする。
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士で相手のことを理解できるように個々のよいところを引き出して褒めてあげるなどの支援をしています。また、出来る仕事は協力して作業できるように考えています。		
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	過去に対処されたほとんどの家族の方が思い出しては尋ねてくれています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来ることは即対応するが、帰宅願望については家族との調整に時間がかかるため、すぐに対応は困難になっている。施設としては、入所前に実際に来ていただいたり、要望があれば入所体験をする時間を設けています。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・関係機関・知人から聞き取りをしている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	細かい変化も、いろいろの角度から判断をするように職員間で情報交換を密にしています。出来る能力を落とさないために、家事など出来ることを続けてもらったり、増やしてみたりして本人のやる気を引き出すように心がけています。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族会を持ち、家族と本人の要望を聞いたり、関係機関からの意見を参考にしてサービス計画を作成しています。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化に応じて見直しが必要かどうかを関係者に相談し、スタッフで話し合い、新しく立て直したり、修正をしたりしています。変化を見逃さないように注意し、引き継いでいます。	



グループホーム赤いんじん

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録と一ヶ月間の状態を記録し、それを基にケース会議を開き問題があれば見直しをしています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	馴染みの人と繋がりが途切れないように、手助けとして電話をしたり手紙の代筆を行なっています。住み慣れた家の近くへドライブしたり、地域の行事に参加したりして出来るだけ交流の場を設けるようにしています。また、必要に応じて小回りの利く体制作りを心がけています。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援しています。		
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ケアマネジャーやサービス事業者と話し合いの機会を利用して情報交換し、必要に応じて他のサービスを利用するための支援をしています。	○	認知症の症状が改善した場合に関係機関と話し合い、在宅や他の施設への移動などを検討するなどしています。
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在の所、ケースがないが、今後必要に応じて対応できるようにしたい。	○	必要になった場合に行政などと連携がとれるようにしておきたい。



グループホーム赤いんじん

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>43</p> <p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入所の際、出来るだけ施設の協力医療機関に主治医を変更していただくよう家族に話し、同意を得ているため、緊急時も即対応が出来る。</p>	○	<p>主治医と家族の連携も取れているため、主治医が直接家族と連絡を取ったり、入院等、病院間の連携も主治医が協力し手配してくださっている。</p>
<p>44</p> <p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>定期的に専門医に受診をしている。</p>		
<p>45</p> <p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>主治医の看護師にいつでも連絡、相談できる状況となっている。</p>		
<p>46</p> <p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院中の病院の医療相談員と情報交換を行なっている。</p>	○	<p>医療相談員との交換した情報を、家族、主治医に伝達、必要に応じて病院と主治医が連絡を取り合っている。</p>
<p>47</p> <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居時にターミナルケアについて家族の意見を聞いておく。状況に応じて随時、家族の意向を主治医に伝え、話し合いのもと方針を決定する。</p>	○	<p>高齢者は急激に重度化しやすいことを入居時に説明し、その対応について家族で考えておくことに理解を求めている。</p>
<p>48</p> <p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>本人や家族の意向を聞き、沿えるように先ず主治医と話し合い、主治医の指示に従い、取り入れながら支援プランを立てます。</p>		

グループホーム赤いんじん

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	居所へ移る場合には情報を十分提出し、移った後も必要に応じて支援が出来る方向を取っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	毎日のミーティング、全体会議の議題として話し合いを行なっています。	○	個人情報の取り扱いは家族の同意書により承諾を得てから行ないます。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	小さなサインを見逃さないで、時間をかけて観察し、言葉を選びながら本人に説明、問いかけをし、意思を確認できるよう支援しています。		
52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望があった時には、対応できることはその日のうちに時間を工夫して対応していますし、その他でも希望があれば、再度スケジュールに汲み込みだりしています。	○	週間予定の他に、外出、買い物、散歩等の希望があると即対応しています。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の好む衣服を着用するようにアドバイスしています。身だしなみも、出来ないところは介助して、清潔感があるようになるようにしています。	○	理容・美容院は本人の希望するところへ同行しています。

グループホーム赤いにんじん

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	主に料理の下ごしらえ、野菜の皮むき、刻みなどの仕事をしてもらっています。
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	○	時間でのトイレ誘導など
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		散歩、買い物、本の読み聞かせ、一緒に歌を歌うなど。

グループホーム赤いんじん

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる人は所持していますし、管理できない人は、出かけるときに手渡したり、使いたいときに渡すなど、その方にあった支援をしています。		
61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、ドライブ、食事会、日向ぼっこ等、その人の体力に合わせて支援しています。	○	各季節の花や、自然を楽しめるようなところにドライブに出かけたり、近隣のホームとの交流会で楽しめるような支援をしたい。
62	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	自分たちの住んでいたところや近くのグループホームへの訪問を行ないます。季節ごとに花見に行くなどもします。	○	協力を得られる家族には予めお願いし、いつでも(自由に)出ただけの体制を作っておきます。
63	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	馴染みの人と繋がりが途切れないように、手助けとして電話をしたり手紙の代筆を行なっています。肉親のことを心配したり、気にしている場合は直接話ができるよう電話にて来ていただくようお願いしたり、電話口で話を出来るような手助けもします。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	普段から家族との連絡などを密にしており、行事があると家族も一緒に参加してもらうなどコミュニケーションの構築をし、尋ねて来易い状況作りに心がけています。訪問者があった場合にはどこの場所が良いか聞き、お茶の接待をします。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束は絶対禁止を基本にしております。	○	医療的処置で危険を判断した場合のみ緊急処置として家族に了解を取る場合があります。

グループホーム赤いんじん

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	○	<p>無断で外に出ようとするすると玄関通過時にチャイムで職員に伝わるようになっています。</p>
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		<p>年1回、近隣住民と一緒に消防署の指導により訓練を実施しています。</p>
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	<p>年1回、近隣住民と一緒に消防署の指導により訓練を実施しています。</p>

グループホーム赤いんじん

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	面会時や必要に応じて随時、家族に状況説明をし、リスクについて話し合います。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝・夕のミーティングに情報交換を行なっています。行動に不穏がある場合は管理者、主治医などと連絡を取り、対処します。		
74	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方が変わった場合はその経過と薬の内容を伝達・記録します。		
75	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便記録をつけ、水分・繊維のある野菜などの献立に気配りをしています。		
76	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自力で可能な人には声かけで、出来ない人には介助や義歯の洗浄を行っています。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録をつけて一定量の摂取の確認をしています。	○	水分の入りにくい人には、一定量摂取出来るように時間を掛けて少量ずつ根気よく補給します。


グループホーム赤いんじん

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	食器の消毒は毎食熱湯消毒、調理器具は熱湯、塩素系で消毒しています。また、職員を介して感染しないために、外から来たときには手洗い、うがいを行なうなどしています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器は毎食熱湯消毒、調理器具は熱湯、塩素系で消毒しています。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関のドアは夜間以外は常時開いてあります。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季にあわせて植物や装飾品など飾りつけ彩りに配慮しています。また、カーテンや暖簾で日差しや光の調整をして居心地よく過ごせるような工夫をしています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファをおいたり、ベランダにはベンチを置くなど、いつでも自由にくつろげるように工夫している。		



グループホーム赤いんじん

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人の好きな絵、思い出の品物や写真、花を飾つ たり家族が届けてくれた物を置きます。</p>		
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている</p>	<p>温度計により温度の管理をしています。時間を決 めて窓を開け、換気をおこないます。</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している</p>	<p>基本的にはバリアフリーで要所に手すりの設置は あるが、特には個人に合わせたものはない。移動 時などには職員が見守ったり介助したりしてい る。</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している</p>	<p>混乱しやすい人には見慣れないものや必要以外の ものを置かないようにし、環境を急に変えないよ うにしている。</p>	○	<p>夜間光るもの、自宅に居たときに見たことがない ものは置かない、急に環境を変化させないように している。</p>
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている</p>	<p>ベランダ、玄関先、庭にベンチを置いたり、収穫 の喜びを味わえるように花や野菜を作っていま す。</p>		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目	
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

グループホーム赤いんじん

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・入居者一人ひとりの訴えに耳を傾ける時間を作るため、マンツーマンで散歩、ドライブ等の支援をしています。
- ・地域交流を活かし、定期的に介護者や一人暮らしの高齢者を食事会に招いたり、年中行事を企画し地域の大人から子供まで参加して盛大に夏祭りを開催します。
- ・その他、近隣のグループホームの利用者同士の交流会や職員は合同で学習会や意見交換会を実施しています。